

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200143		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	だいこんの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719番地1		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	平成30年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2018_022_kani%20true&amp;aj_gvosyoCd=2190200143-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2018_022_kani%20true&amp;aj_gvosyoCd=2190200143-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年11月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の自己選択、自己決定に重点を置き、日々の生活に反映しています。個別レクについては、本人のやりたいこと、行きたいところ、食べたい物を聞き出し、それを叶えるために、地域の方、家族の方に協力してもらい、実現できるようにしています。個別の残存能力を低下させないように、生活の中で定期的な楽しみ、役割を持って頂き張のある毎日を過ごしていただけるように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の日々の生活が、家庭的な雰囲気の中でその人らしく暮らせる支援に取り組んでいる。利用者のやりたい事、どう過ごしたいか一人ひとりの思いを聞きだし、散歩・トランプ・おはじき・数独など個別のレクリエーションに取り入れている。入浴時の着替え、外出時の化粧や洋服選び、日中の過ごし方、どの場面においても利用者へ選択・決定してもらうようにしている。また、食事の準備や片づけ・洗濯物たたみ・掃除など利用者の出来る力を役割として張りのある暮らしを支援している。地域行事に利用者へ参加したり、事業所のふれあい祭りに地域の人を招待したりして相互の交流を深めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に提示してあります。日常生活の中で育まれるように日々の関わりを大切にしながら業務に当たっています。	家庭での暮らしが継続出来るように利用者本位の支援に努めている。日々の見守りや会話からの気づきや利用者の希望を職員間で共有して、その人らしく明るく過ごせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が事業所に来てくださり、イベント行事に参加して下さったり、昨年から自治会に加入し、お宮掃除などに参加し地域との交流を図っています。	利用者と回覧板を届けたり、事業所のふれあい祭りに招待したりして交流の輪を広げている。地域行事にも参加し、散歩時に挨拶や話をしたり花をもらったりしている。高校生のボランティアの受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入したことで、利用者との交流(主に地域清掃)ができるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っています。近況報告・連絡等を行っています。	利用者の現状や経過・介護保険制度の変更や追加などの報告をしている。管理者の退職もあり、会議の開催が不定期となり、話し合いからサービスの向上に活かす取り組みをするまでに至っていない。	定期的に会議を開催して、参加者からの意見や話し合いからサービスや運営に活かす取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から事業運営、利用者の処遇等市町村に聞いてもらっています。的確な回答を頂いています。	書類や申請の手続きなど解らないことは、担当者や相談して行っている。利用者や家族の支援の為に地域包括支援センターと連携し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておりません。夜間のみ施錠しております。外に出たい利用者には必ず職員が付き添っています。身体拘束を行うことなく生活が出来るようその都度話し合いをしています。	日中は施錠せず、利用者が外に出る気配があれば職員が付き添い何度でも散歩に出かけている。居室のベッド柵や食事時の椅子も行動制限せず、利用者の言動にも否定的な対応をしないよう職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の教えを受けたりして、高齢者虐待防止の内容は知っています。日頃から言葉使い態度など注意しています。過去も現在もそのようなことはありません。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象利用者がおりませんが制度があることは知っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書更新時には同意書を交わして納得させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員と利用者家族とのコミュニケーションも毎月の担当者からの手紙や聞き取りを日々反映しています。	面会が多く、家族と話す機会も多い。担当者が利用者の様子を毎月手紙で知らせ要望を聞いている。ボランティアの音楽療法の回数を増やしてほしい要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通して意見・提案などの意見交換をし事業所運営に反映しています。	管理者・職員の退職が相次いたが、代表者が人材確保に努め、職員の負担軽減をすると共に、意見や提案を言い易い環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の一部に査定部分を設け職員のやる気もできています。勤務表作成時に個々の事情考慮し無理のない勤務表を作成しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市町村の研修案内は回覧し、受講は本人に任せています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他の事業者との交流はありません。職員には勉強会など積極的に進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを参考にしながらできるだけ本人の希望に叶うよう、ミーティング等を共有し、しっかりサポートしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることはないか、不安に思うことはないか、会話の中から、読み取っている。利用者様の様子については、月末に家族宛の手紙・面会時に情報提供しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の希望されるサービスを出来る限りお応えするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が一方的にする、されることのないよう、日々心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係性を把握し家族と相談しながら利用者本人の生活を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会は家族の承諾を事前にとって頂いていれば面会は自由となっており、友人や馴染みの方との関わりが切れないように努めています。	誕生日に行きたい馴染みの場所や店に出かけている。昔住んでいた所に行く事もある。利用者の会話の中から大切な人や場所への思いを把握し、家族や関係者の協力を依頼して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々仲違いをする事もありますが、職員が間に入り普段の生活に戻るよう支援しています。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了となっても聞きたいこと、困ったことなど、家族の方が訪問されることがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いを聞き出し、外出希望には個別計画を実施しています。	職員は、話を聞く、否定しない姿勢を心がけ利用者との信頼関係を築き、思いや意向を把握している。着替えに際しても靴下に至るまで「どちらにしますか?」と問いかけ利用者の判断を仰いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にセンターシートを書いてもらい、定期的に更新しています。センターシートを参考にしわからない点や確認したいことは面会時に聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、申し送りをし、体調などに変化があった時はその情報を全員で共有し、安全に過ごせるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に職員が担当者としてつき、年に数回モニタリングを行っています。それを介護支援専門員が新たな介護計画に反映させています。	面会時に家族の希望を聞き、毎月の会議で担当職員が報告する利用者の状況からモニタリングを行い介護計画を作成している。状態変化時は必要に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日に様子は記録に残し、職員間で情報を共有しながら個々の利用者の支援に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の形態や入浴方法など、個々の要求または、その時々状態に併せてより良くサービスが提供出来るように取り組んでいます。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力を得て、一時帰宅をされ、庭などの草むしりをされたり、馴染みの美容院に行かれたりと地域交流なども楽しまれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医師について家族に確認をし、家族指定のかかりつけ医師に受診しています。	契約時に利用者及び家族にかかりつけ医の希望を確認している。従来のかかりつけ医受診は家族が付き添い、利用者の状況を口頭で伝え受診結果の報告を受けている。職員が同行することもあり情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	退院前にカンファレンスを行い、病院・家族・事業所・本人と参加しています。特に退院後の注意点や対処法などを全員で聞き、納得した上で		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前にカンファレンスを行い、病院・家族・事業所・本人と参加しています。特に退院後の注意点や対処法などを全員で聞き、納得した上で退院し、生活を送ってもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	直接的に終末期ケアとして行っていないが「できるところまでやる」という形をとっているため、それが自然と終末期ケアとなっていることがこれまでにありました。	契約時に事業所の方針を説明して、同時に特別養護老人施設の申し込みも依頼している。医療が必要になった時や状況に応じて関係者と話し合い、本人・家族の希望を聞きながら事業所として出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルとしては事業所に置いてあるが、応急処置などの訓練はしていないため、今後全員で勉強していきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。今後、地域の方にも声かけをし、参加して頂きたいです。	管理者不在もあって、今年度の避難訓練は未実施であり、計画もなかった。代表者は早急に行うこととしている。	夜間想定を含む避難訓練を早急に実施して欲しい。また、地域との協力体制についても期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と会話をする際、言葉使いに気をつけているが、関わる時間が長くなるにつれ馴れ合いが出てしまうので、その都度注意し合える環境を作り丁寧に対応をしていきたいです。	利用者を人生の先輩として接するようにと代表者は職員に説いている。言動を否定せず話を聞いたり、人生経験で培われた知恵や技を活かす場を考え、自己決定の場を作るなど利用者の誇りへ繋がるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や行動で本人の希望や要望が出て時は、実現できるように関係者に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がやりたいことをされる中で、職員はそれに参加または見守りをしています。何をしたいかわからない方には職員から声かけをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、髪を整えたり、服を選んだりされる方がいらっしゃいます、それを長く続けられるようい支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に適した食事形態での提供が来ています。また、出来る利用者の方と準備・片付けなども一緒に行っています。	野菜の下ごしらえや準備・片づけなど一緒に行っている。利用者と全職員が一つの食卓を囲み和やかな雰囲気です。誕生日のリクエストに応え外食や喫茶店のモーニングに出かける時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの利用者の個別の状況を把握し、医師の意見も参考にしながら支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、2週間に1度、必要な方には歯科医の往診、歯科衛生士による口腔ケアを行っています。歯科衛生士には口腔内の清潔保持についてのアドバイスをもらっています。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には定期的にトイレ誘導をしている。紙パンツやパット、おむつなどは最小限の使用に留め、トイレでの排泄を勧めています。	利用者全員が職員の声かけや誘導で昼夜トイレで排泄をしている。入居前に紙パンツ使用の人にもトイレでの排泄を支援して、布パンツに切り替えるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や個別レク、食事や飲み物で便秘予防に努めているが、下剤、整腸剤を使用している方が数名います。個別にフローチャートを作成し、服薬調整をし、便秘予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一日置きではあるが、希望は本人による。湯温、時間なども本人の希望をある程度聞き、入浴を楽しんでいる。	一日おきの入浴で、希望すれば毎日の入浴も可能である。入浴を拒む人には、日時をずらしたり誘い方を工夫したり、職員を代えるなどして対応している。又冬至の柚子湯を行事に組み入れて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に寝る時間が長くないように配慮することはありますが、その方の体調等により日中も休んで頂くこともあります。不眠については、主治医に相談しながら対処しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に主治医、薬剤師と連携をとり情報交換や相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には好きなように過ごしていただくようにしています。また、事業所の中でもそれぞれ役割があり、生活に張りが出ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人レクがあり、好きなところへ好きな事をしてに出掛けています。本人の希望が中心となり家族や地域の方に協力をして頂いて実現している。	利用者の外出希望を把握し、散歩や近所の喫茶店・美容院に出かけている。折り込みチラシを見て外食や買い物の希望も家族の了解を得て支援している。又季節に応じ菊花展や花見・紅葉狩りなど利用者の健康状況に留意しながら行っている。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの意味を理解することは大切ですが、紛失を考え、購入については事業所の立替金で行っています。利用者個人で持っている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族に電話をし、話してもらったり、携帯電話を所持している利用者もみえ、自由に家族と連絡をとっていらっやいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は毎朝掃除をして綺麗に保ち、カレンダーや壁飾りを取り入れ、季節感を出しており、居心地のよい環境を保っています。	季節の手作りカレンダーや花を飾って家庭的な雰囲気をつくるようにしている。空気清浄機や加湿器を設置し、換気や消毒液を使用した拭き掃除などインフルエンザや感染対策にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決められていますが、ソファで利用者同士で会話を楽しめたり椅子で外の景色を見て過ごされたりとそれぞれの時間を過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた愛用の身の回りの品を持参して頂き、本人落ち着いた空間を心がけています。	使い慣れた筆筒・ソファ・テレビを持参している。位牌・家族写真・化粧品・趣味の作品など本人の大切な物を置いて居心地よく過ごせるようにしている。利用者が動きやすいよう家具の配置にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に取り付けられた手すり以外に、ソファや机、椅子などが動線近くにあることにより、声かけと見守り、付添いで生活できるようになっています。必要な表示は大きく表示しています。		